

西濃鉄道株式会社 安全報告書

2024



1. ごあいさつ

日頃は当社の鉄道事業に対し、ご理解、ご支援を賜り厚く御礼申し上げます。

西濃鉄道では、「安全は鉄道事業の心臓部」との理念のもと、人命を最優先に守ることを最も重要な使命と位置づけ、事故・事象の撲滅を目指し、全社一丸となって取り組んでおります。

平成 28 年 10 月発生 of 市橋線列車脱線事故と、中部運輸局より受けた改善指示(令和 3 年 10 月)により当社が失った信用は大きく、再び信用を取り戻すためには、再発防止だけでなく、これらを風化させないことが必要であると考えています。

当社では、毎年 10 月に全社をあげて「異常時対応訓練」を実施しております。また、社員が社外の研修会等へ参加できる機会を設け、鉄道スキルにとどまらず、広く知見を深めることができる環境を整えています。

全ての社員は、「人命を最優先に考え、常に正しい作業を実行する。」という安全行動指針に基づいて業務を遂行し、全社員が一致結束して信用回復に取り組むとともに、社員一人一人が自らを改革することを、内外に宣言いたします。

2024 年 9 月 1 日
代表取締役社長 服部 主計

2. 安全基本方針

[1]安全の取り組み方針

01 全ての従業員は、常に安全を最優先に考えた行動をとる。

- ①推測や経験に頼らず自ら安全を確認する。
- ②疑わしい、危ないと思った時は、必ず列車・車両・作業を止めて安全を確保する。
- ③規程の遵守。

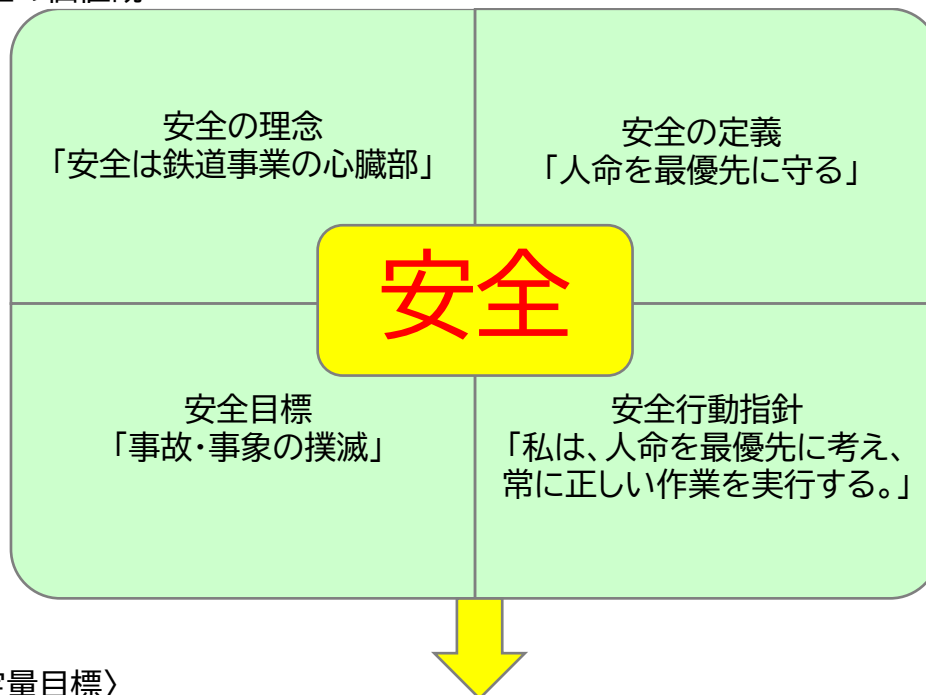
02 人命に関わる事故・事象を絶対に発生させない。

- ①事故・事象の再発防止・未然防止。
- ②安全に関する情報を自職場に置き換えて役立てる。

03 関係各社(JR 貨物、荷主)と連携して安全対策を行う。

- ①石灰石飛散防止対策。
- ②教育訓練の強化。

[2]安全の価値観



〈定量目標〉

死亡事故	0件	傷害事故	0件
列車事故(衝突, 脱線等)	0件	人身傷害事故	0件
踏切傷害事故	0件	鉄道物損事故	0件
インシデント	0件		

3. 重点項目及び具体的取り組み事項

01 全ての従業員は、常に安全を最優先に考えた行動をとる。

現場の取り組み	管理者の取り組み
*指差確認喚呼を励行し、安全が確保されていること、また、作業に支障がないことを自ら確認する。	*従業員がルールに基づいて正しく作業を行っていることを確認する。必要に応じて個別に指導や助言を行う。
*疑わしい、危ないと思った時は、必ず列車・車両・作業を止めて安全を確保する。	*現地現物を確認し、現場の実態を正しく把握する。
	*現場の良い取り組みを全社員に紹介する。また、良い行いを表彰する。
	*「速やかな正しい報告」の重要性に関する教育を実施する。

02 人命に関わる事故・事象を絶対に発生させない。

現場の取り組み	管理者の取り組み
*市橋線列車脱線事故(平成 28 年 10 月発生)を教訓とし、事故・事象の再発防止・未然防止に努める。	*市橋線列車脱線事故(平成 28 年 10 月発生)について従業員が振り返る機会を設け、再発防止・未然防止の意識高揚及び、事故の風化防止を図る。
*酒気帯びの有無の確認記録について、記入漏れ・保管漏れが無いことを、定期的を確認する。	*酒気帯びの有無の確認を確実に言い、記録に残すよう、継続的に指導する。(点呼立会いを含む)
*安全に関わる情報を、自職場に置き換えて役立てる。	*従業員が安全に関わる情報を自職場に置き換える支援を行う。
	*安全に関わる情報を速やかに社内に発信する
	*安全に関わる情報を教育訓練で活用する。

03 関係各社と連携して安全対策を行う。

現場の取り組み	管理者の取り組み
*石灰石飛散防止対策について、組成点検と同等の品質を提供できるよう、必要な措置を講じる。	*石灰石飛散防止対策について、組成点検と同等の重要な作業と位置づけ、この認識を社内で共有する。
*石灰石飛散防止対策の精度を高めるため、荷主との連絡を密にする。	*関係各社との連絡を密にし、従業員が必要な支援を受けられるようにする。
*社外で開催される研修等へ参加することにより、必要なスキルの獲得、向上、更新に努める。	*社外で開催される研修などへ従業員が参加できるよう、必要な措置を講じる。

4. 2023年度の取り組み実績

1. 教育訓練

部署ごとに教育訓練を毎月実施し、業務スキルの獲得と向上に努めています。また、異常時対応訓練を年3回実施し、そのうち1回は、全部署合同で、故障車両を救出する訓練を実施しています。

さらに、社外の研修会等への参加を推進し、幅広く、そして、最新の情報に触れる機会を設けています。これには管理者も含まれます。(2023年度は計32回参加)



訓練前打合せ



異常時対応訓練



異常時対応訓練



室内での教育訓練

2. 線路設備などの改善

4日に1回の線路巡視により、線路設備などの状態を把握し、予防保全に努めています。指導員による指導のもと、自社で年間約100本のまくらぎ交換を実施しています。

全体的に経年劣化が進んでいることから、引き続き、優先度の高いものから順に、設備の修繕や更新を行います

3. 機関車の維持管理

昨年度、新たにDD45型機関車を1両導入したものの、残る2両は昭和時代のものであり、経年劣化が見られるため、線路設備同様、予防保全に力を入れています。

当社は3種類の機関車を保有しており、機関区では、種類ごとに機関車の取扱いに関する知識を深め、機関車に起因する列車の遅延や運休を発生させないよう、日々、メンテナンスを行っています。

4. 美濃赤坂駅構内の安全対策

美濃赤坂駅では、昨年設置したロープのおかげで、構内へ公衆が立ち入る事象が大幅に減少しました。今後は、定期的にロープの点検や修繕を行うとともに、お客様に分かりやすいように、看板の増設などを検討してまいります。

この安全報告書は、鉄道事業法第19条の4に基づき、
輸送の安全確保のための取り組みや
安全の実態について公表するものです。